

質問者 北山順一(新政会)

### 留学生支援について

現在の国際交流都市は姉妹都市や協力都市などいろいろな名前を付けているが、全部で 10 都市になる。これらの都市とは 5 年や 10 年に一回というような交流をしているが、そんなことに意義があるとは考えられない。

本当の意味での交流をするのであれば、姉妹都市間の留学生の交流をしてはどうかと考える。外国の状況を見てみるとニュージーランドでは留學生産業としてとらえており、留學生の数は多い時で 12 万人、現在は少なくなっているが 8 万 8 千人であり、年間に 3 万 3 千人の雇用と 1,300 億円の経済効果があるといわれている。

ニュージーランドは人口が 430 万人に 8 万 8 千人の留學生に対して、日本は 1 億 2,700 万人に 11 万 8 千人、神戸は 2,100 人である。

神戸市では、市長と大学の学長の間で毎年、いろいろなことをテーマにして交流をしているが、留學生をもっと呼び込み、また姉妹都市の学校に神戸から留學を斡旋するようなことはできないかと考える。

留學生にどれくらいの力を入れるかが神戸のバロメーターになると考えるが見解を伺いたい。

### 答弁者 大森 局長

平成 21 年の 11 月現在でアジアの国々を中心に 2,117 名が在籍している。

こういった方々は将来的に諸外国と神戸をつなぐ架け橋となることが期待されるので、留學生支援事業は神戸に愛着を持ってもらううえで重要であると考えている。

神戸の国際性の向上のために、留學生の方々には神戸の街づくりに寄与していただけたらと思うので、今後とも貢献していただきたいと考えている。

### (再質問)

ニュージーランドでは留學生産業が 5 番目の産業になっている。神戸に今の 10 倍の留學生が来たらどうなるか。

各大学の学長と協力してやっていただきたいと考えるがどうか。

### 答弁者 大森 局長

国際化推進大綱の改定の中でも留學生の問題はテーマとして上がってくると思うので、学識経験者や外資系企業の方々の意見も聞きながら方向性を定めていきたい。

### (要望)

留學生支援のため税金からも支出していただきたい。指定都市のなかでトップレベルというが、そのレベルが低い。オンリーワンとして突出していただきたい。それが、神戸市にとって良い結果を生むということを確認している。

### 在住外国人・留學生にとって必要な施設の誘致についての要望

現在、神戸市には 120 ケ国以上、約 44,000 人の外国人の方がおられる。

なぜ、多数の人が住むのかというと、学校や病院などがあり、企業もあり、宗教上の問題も解決がつかないなど神戸にいれば何とか生活ができるからである。

但し、領事館が少ないことは問題があると思っている。

一時は17あった在神外国公館は、現在では2つのみとなってしまっている。これについてはあきらめずに誘致を頑張っていただきたい。